

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2025年5月6日第175号—

※Xアカウント #チェンジ川崎

<目次>

●5月の青空のもと川崎メーデー開催

◆先生たちの長時間労働をなくそう！

▲お知らせコーナー

- ① 5/8 台風19号多摩川水害川崎訴訟第16回口頭弁論
- ② 5/8 緊急学習会「能動的サイバー防御法案」の問題点
- ③ 5/13 川崎に「補聴器購入助成制度」を署名スタート集会-
- ④ 5/24 第66回川崎母親大会
- ⑤ 5/25 「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」
- ⑥ 5/25 ゆめシネマ「無声映画上映会」「汚点」「紐育の波止場」
- ⑦ 6/1 平和をきずく市民のつどい
- ⑧ 6/11 SNSによる選挙の変容に立ち向かう
- ⑨ 6/14 川崎の緑地と樹木を守ろう～#チェンジ川崎 講演と交流のつどい

★編集後記

●5月の青空のもと川崎メーデー開催

5月1日、第96回川崎メーデーが中原平和公園で開催。400名超の労働者、市民が集まりました。

川崎民主市政をつくる会もメーデー成功を願って参加しました。

会場で注目したのは、全労連メーデーとの共通スローガン(大幅賃上げ、今すぐ時給1500円以上の引き上げ、等)とともに、演壇中央の背景に掲げられた川崎メーデー独自のスローガンです。

その17項目のスローガンは、川崎民主市政をつくる会が指摘してきた「福田市政12年の大問題」16項目と見事に重なっています。

子育て支援、学校教育の危機克服、市内各地の再開発と町こわしの見直しを求めています。

川崎メーデーに参加した労働者と労働組合のみなさんが、自らの待遇改善と同時に、全市民のいのちと暮らしを守る課題を高く掲げたことは、「#チェンジ川崎」をめざす力強い共同の広がりを実感することができました。

発言の機会をいただいたので、川崎民主市政をつくる会として、以下の訴えを行いました。

今年は、川崎市長選挙が行われます。

今年で12年目の福田市長の動向に注目が集まります。

「さすがに4期16年は長すぎる！」の声も聞こえてきます。

なぜなら、福田市政が12年間で進めてきた市政には、3つの大問題があるからです。

第1は、子育て支援の遅れと学校教育の危機です。

新規に増やした保育園は園庭のないのが当たり前。子供医療費の助成は、中学生までで打ち切りで、4年生からは一回500円の窓口負担があります。

学校の先生が大量に未配置で学校に穴が開く深刻な事態です。

第2は、市民生活を守り、向上させる施策の遅れと後退です。

福田市政は、市営住宅を増やさない、特別養護老人ホームも増やさない、市民が使う公共施設も増やさず統廃合すら画しています。

市内で働く労働者や中小事業者への支援には冷たく、大企業には巨額の税金をつぎ込んでいます。

第3は、大企業優先の再開発が、市民の暮らしを脅かしていることです。

臨海部の港湾施設、巨大な橋、道路の建設に多額の税金を使い、武蔵小杉駅や鷺沼駅、登戸駅周辺の再開発には多額の補助金を支出しています。

等々力緑地の再整備での大量の樹木の伐採計画、西加瀬の巨大物流倉庫計画、コンビナート上空の新飛行ルートなど、次々と市民生活の悪化が明らかな事業を容認、むしろ推進しています。

こんな福田市政の4期目を許せるでしょうか。

みなさん、ごいっしょに、子育て安心、暮らし安心の町、川崎をつくりましょう。

「政令市トップの財政力」は、市民のためにこそ使うべきです。

そして、福祉や、労働者の支援に使われた税金は、市民生活を向上させ、町の経済の好循環が生まれます。

あと6か月後の市長選挙では、労働者と市民の大きな共同の力で、「#チェンジ川崎」を必ず実

現しましょう。

市古博一(川崎民主市政をつくる会代表委員)

◆先生たちの長時間労働をなくそう！

5月1日の川崎メーデーで、川崎市教職員連絡会の代表が、教員の長時間労働の改善を訴える発言があり、学校で今起きている大変な実態に、大きな反響がありました。

その発言を紹介します。(一部、省略)

<「教員残業代ゼロ制度」の廃止を！>

学校の先生は、子どもの成長を手助けする教育労働者です。

しかし、労働者であるにもかかわらず、教員は、いくら働いても残業代を払われていません。

54年前に「給特法」という法律によって、先生たちには「教育調整額」を一律給与の4%払うことで、いくら働いても残業代は払わないという仕組みがつけられました。

今、国会ではこの「教育調整額」を来年は4%から5%に引き上げる法案が出されていますが、この「残業代ゼロ制度＝定額働かせ放題の仕組み」は変わりません。

そもそもこの4%は、月8時間の残業を想定して出された数字です。

先生たちは、月8時間程度の残業なのではないでしょうか。とんでもありません。

昨年の川崎市教委の実態調査では、4月に中学校では月100時間以上の残業をした先生が約4分の1近くもいたのです。

しかもこの残業時間には、家で仕事をしている「持ち帰り仕事」の時間は含まれていません。

先生の長時間労働の問題の解決の手立てのない「給特法改正」は認めるわけにはいきません。

<先生が未配置の学校で何が起きているか>

いま、学校は深刻な事態になっています。

4月、川崎市では全市で122人もの先生が未配置です。

現場ではどうなっているのでしょうか？

小学校では35人学級がやっと全学年で実現したのに、一クラスの人数を36人以上の学級にした学校が全市で7校もあります。

A 小学校では1年生のクラスが本来なら4学級で学級人数は29人か28人の予定でしたが、先生が配置されず、38人や37人の3学級でスタートしたのです。

学校生活が初めての子ども達を教えるのに10人も1クラスの人数が多くなってしまったのです。ひとりひとりの子どもにこれでは目がいきとどかなくなるのは当然ではないでしょうか。

中学校で、4月には市内で技術科の先生が4人、家庭科1人、美術1人の先生が未配置で、先生が確保できるまでその教科の授業が出来なくなっているのです。

<どうして学校が異常事態になってしまったのか>

これは何年も前から、川崎市教委が教員採用方針として、正規の教員を法令どおりに配置せず欠員を容認し、欠員数を臨時任用や非常勤の先生で埋めてきたことが一番の原因です。

4月21日に、私たち教職員連絡会が教育委員会に提出した、「教員の未配置をゼロにする」請願の審議が行われました。

現場の大変な実態を陳述で訴えました。しかし、教育委員からは、請願の趣旨に記載した『教育に穴が空く』とか『子どもの学習する権利が侵害されている』という事態にまではなっていないという理由で、請願を否決しました。

私たちは現場で起きている深刻な問題に寄り添おうとしない教育委員会議の審議結果に抗議の記者会見を開きました。

これは先生だけの問題ではなく、将来を担っていく子ども達の教育を受ける権利に大きな影響を及ぼす問題なのです。

ともに川崎市のこんな姿勢を変えようではありませんか。

(船津了(川崎市教職員連絡会事務局長))

★お知らせコーナー

① 台風19号多摩川水害川崎訴訟第16回口頭弁論

5/8(木)15時開廷

14時半より事前集会

横浜地方裁判所・川崎支部 1 号法廷

終了後に報告集会

川崎合同法律事務所・7 階会議室

問合せ

044-755-0007(長谷川)

044-434-4290(船津)

[詳しくはこちら](#)

② 緊急学習会「能動的サイバー防御法案」の問題点

～国民監視と先制攻撃の危険性 自治体への影響～

講師:山口毅大弁護士(川崎合同法律事務所)

5/8(木)19時

エポックなかはら 7F 第3 会議室

参加費無料

主催:日本共産党川崎市議団

044-200-3360

[詳しくはこちら](#)

③川崎に「補聴器購入助成制度」を-署名スタート集会-

5/13(火) 14時～15時半

高津市民館第4 会議室

講演「東京の運動から学ぶ聞こえの支援事業」

講師 元台東区議会議員 杉山光勇氏

[詳しくはこちら](#)

④ 第66回川崎母親大会

5月24日(土)10時～16時10分

多摩市民館

午前10時～7つの分科会

午後13時10分～全体会 講演 武本匡弘さん

「地球の未来を守るため、いまできること」

資料代 800円 高校生まで無料

[詳しくはこちら](#)

⑤ 第30回「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」

5/25(日) 11時～15時

JR 溝口駅前ペDESTリアンデッキ

-どうする私たちの川崎-

- ・大規模開発と緑の保全
- ・気候変動と水害対策
- ・健康と介護
- ・給食無料化と先生不足

主催:「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」実行委員会

044-211-0391 (川崎公害病患者と家族の会内)

[詳しくはこちら](#)

⑥ ゆめシネマ「ピアノ伴奏付き無声映画上映会」

5/25(日)(日程が変更になっております、ご注意ください。)

10時「汚点」(ロイス・ウエバー)1921年

14時「ニューヨークの波止場」(スタンバーグ)1928年

ピアノ伴奏:柳下美恵さん

弁士:宮下啓子さん

一般:各1000円、当日:各1500円、学生・障がい者各500円

申込み:044-433-3003 ゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

⑦ 平和をきづく市民のつどい

6/1(日)10時～15時(展示は17時まで)

講演:濱住次郎さん(日本被団協事務局次長/13時半より)

参加費無料・申込不要

主催:川崎市核兵器廃絶平和都市宣言記念「平和をきづく市民のつどい」実行委員会

連絡先:090-1458-3102 (柴田昇)

[詳しくはこちら](#)

⑧ SNSによる選挙の変容に立ち向かう

講師 西谷 修さん

6/11(水)18:30～

川崎市産業振興会館 9階第3研修室

参加費無料 事前申込不要

連絡先 川崎合同法律事務所

044-211-0121

[詳しくはこちら](#)

⑨ 川崎の緑地と樹木を守ろう～

#チェンジ川崎 講演と交流のつどい

6/14(土)9:45～

川崎市総合自治会館 第1～第3会議室

資料代 300

(1)講演 藤井英二郎さん(千葉大名誉教授、専門・環境植栽学)

著書 街路樹が都市をつくる(岩波書店)他

緑地と街路樹研究の第一人者です

(2)報告 等々力緑地の緑を守る運動に取り組んで

主催 川崎民主市政をつくる中原区の会、川崎民主市政をつくる会(全市)

連絡先 市古博一(090-7830-8030)

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

三上智恵監督作品「戦雲(いくさふむ)」を観る

戦後80年、私たちは「戦後」を守り続けてきた。

そう思いたい。しかし、このドキュメンタリーは、「私たちは戦後ではなく『新しい戦前』にいる」と言う事実を突きつける。

日本最南端の島、与那国島、石垣島、宮古島でこの7年に進んだ「軍事基地化」。

島民を守るためとして、始まった自衛隊基地建設は、駐屯地建設、弾薬庫、射撃訓練場、ミサイル配備と続き、今や、中国や北朝鮮と対峙する軍事要塞の島になった。

そして、全島民避難計画まで具体化されようとしている。

全島民避難は、島民を守るためではなく、島民が戦争の足手まといになるからではないのか。
でも、多くの島民が、この自衛隊増強の事実には抗い続けている。

なぜなら、ここは自分たちの命を支える場所だから。
おじい、海に出て、カジキをとる。

自衛隊誘致に反対はしてこなかったが、今は、基地がない方が平和は続き、今の暮らしが続くのだとわかった。

酪農家は、全島民避難と言うが、牛たちは置いて行けと言うのか、と憤る。

だから、島民は反対を続けてきた。
それぞれの意思で、座り込み、声をあげ、議会にも挑戦した。

そして、今も基地ゲートの前で監視を続ける。ここであきらめるわけにはいかないのだ。

5月3日、憲法誕生78年目の憲法記念日が終わった。

「戦雲」は、沖縄にとどまらない。

軍事費の拡大が2025年度予算では、8兆7千億円(前年比9.4%増)に膨れ上がる。

この「戦雲」を払うには、一人でも多くの人々が、政府による戦争準備の事実を知ることであり、戦争推進のごまかしの言説を見抜く力をつけることであり、そして、行動することだ。

もう「戦後を守ろう」と言い続けるのはやめた方がいいのか。
もっと直截な言葉が必要だ。

巧妙に進む戦争準備を止めよう。
自衛隊による戦争準備には協力しない。

一人一人の行動が、平和を守り未来の平和をつくる。
私は「戦雲」ではなく「青い空と白い雲」を見続けたい。(H)

☆☆チェンジかわさき!☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき! ☆☆